

農政学特論 II (2 単位)担当者氏名 友田清彦

◆学習・教育目標

「農政学特論 II」では、わが国における農政思想の展開過程について検討する。各時代の農政思想は、それぞれの時代の農政課題と密接不可分の関係にある。明治前半期の啓蒙的な農政思想に始まり、明治 30 年代にかけての農村における社会問題の発生、大正・昭和戦前期におけるその深刻化にともなって、農政思想もそれぞれの時代的刻印を帯びて変貌する。本講義ではこのような農政思想の展開過程について、日本農業の展開過程との関連を重視しつつ検討を加え、その展開メカニズムを明らかにする。これによって、農業経済学系の学位（修士・博士）を取得するために最低限必要な知識の獲得を目指す。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

農政 _____ 農業政策 _____ 農政思想 _____ 農業思想 _____
 農本主義 _____ 帰農思想 _____ 農村社会問題 _____ 地主制 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	江戸時代の農政思想	荻生徂徠、二宮尊徳、安藤昌益など	本授業のねらいは、日本における農政思想の展開過程についての基礎的な知識の獲得を主眼とするが、随時課す予定の課題やレポート作成を通じて、史料の検索・収集方法や解読技術の習得・習熟にも努める。予習・復習時間は各 2 時間。
2	啓蒙期の農業結社と農政ジャーナリズム (第 2・3 週)	津田仙と学農社、『農業雑誌』、開農義会と啓蒙的農政官僚、『開農雑報』、農政ジャーナリズムの始まり、その他	
3	農村社会問題の発生と農政思想 (第 4～6 週)	農学会と『興農論策』、前田正名と興業意見、横井時敬と柳田國男、その他	
4	報徳思想の展開 (第 7・8 週)	報徳社運動、岡田良一郎、岡田良平、品川弥二郎・平田東助と信用組合、その他	
5	大正期のトルストイ主義と帰農思想 (第 9～11 週)	トルストイとクロポトキン、橘孝三郎と兄弟村農場、武者小路実篤と新しき村、徳富蘆花、江渡狄嶺と百姓愛道場、その他	
6	農業恐慌と農本主義思想 (第 12～13 週)	橘孝三郎と愛郷塾、権藤成卿、宮沢賢治と松田基次郎の最上共働村塾、その他	
7	満蒙開拓と農本主義思想 (第 14・15 週)	石黒忠篤、加藤完治、日本国民高等学校、農村における塾風教育、その他	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

特になし

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

特になし

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

課題 50 点、レポート 30 点、授業中における討論への参加度など 20 点

◆オフィスアワー

毎週水曜日・木曜日の 12:10～13:00。オフィスアワーの時間帯でも校務のため研究室を不在にしている場合があるので注意すること。

◆その他受講上の注意事項

特になし